S57-3 「プレアンケートに基づく改訂実務実習に向けての大学・施設の準備状況」

戸田 潤（昭和薬大）

2019 年から開始となる改訂モデル・コアカリキュラムでの実務実習を円滑に始められようにすることが薬学関係者の課題となっている。薬学教育協議会では、大学における薬学準備教育と実務実習施設（病院・薬局）での実習のあり方についての現状を把握するために、薬系大学、および病院・薬局を対象に アンケート調査を実施した。シンポジウムではその結果を報告し、それを基に新しいコア・カリキュラム下での実務実習のために「何を準備しなくてはならないか」を討論する。

Pharmaceutical education staffs should successfully start in 2019 the new pharmacy practice training defined in the revised model core curriculum. The Council on Pharmaceutical Education conducted a survey on the current status of the preparatory pharmaceutical education system carried out by university teaching staffs and the status of the pharmacy practice training provided by pharmacist trainers among universities, hospitals and pharmacies. We report the results of this survey. Based on the results, we provide discussing opportunities concerning “What should we prepare for the new pharmacy practice training?”

プレアンケートに基づく改訂実務実習に向けての

大学・実習施設の準備状況

～2014年9月調査のアンケート結果から～

薬学教育協議会
薬学教育調査・研究・評価委員会
戸田　潤（昭和薬科大学）

アンケート調査の概要

目的／平成31年度からの改訂モデル・コアカリキュラムに沿った実務実習に関し、高い教育効果を得るための実務実習準備教育の在り方について情報を共有し、今後の議論を進めること

時期／平成26年8月18日～ 9月10日

対象／ **1. 薬系大学**　　**2. 実習生受入施設（病院・薬局）**

内容／ ❶科目配置の新旧比較　❷ SBOsと科目の対比

❸連携（大学―施設、大学―大学）

❶SBOを主として実施すべき施設

❷実施すべき施設におけるSBOs実施状況の現状

大学側の準備状況

文部科学省医療人養成推進等委託事業

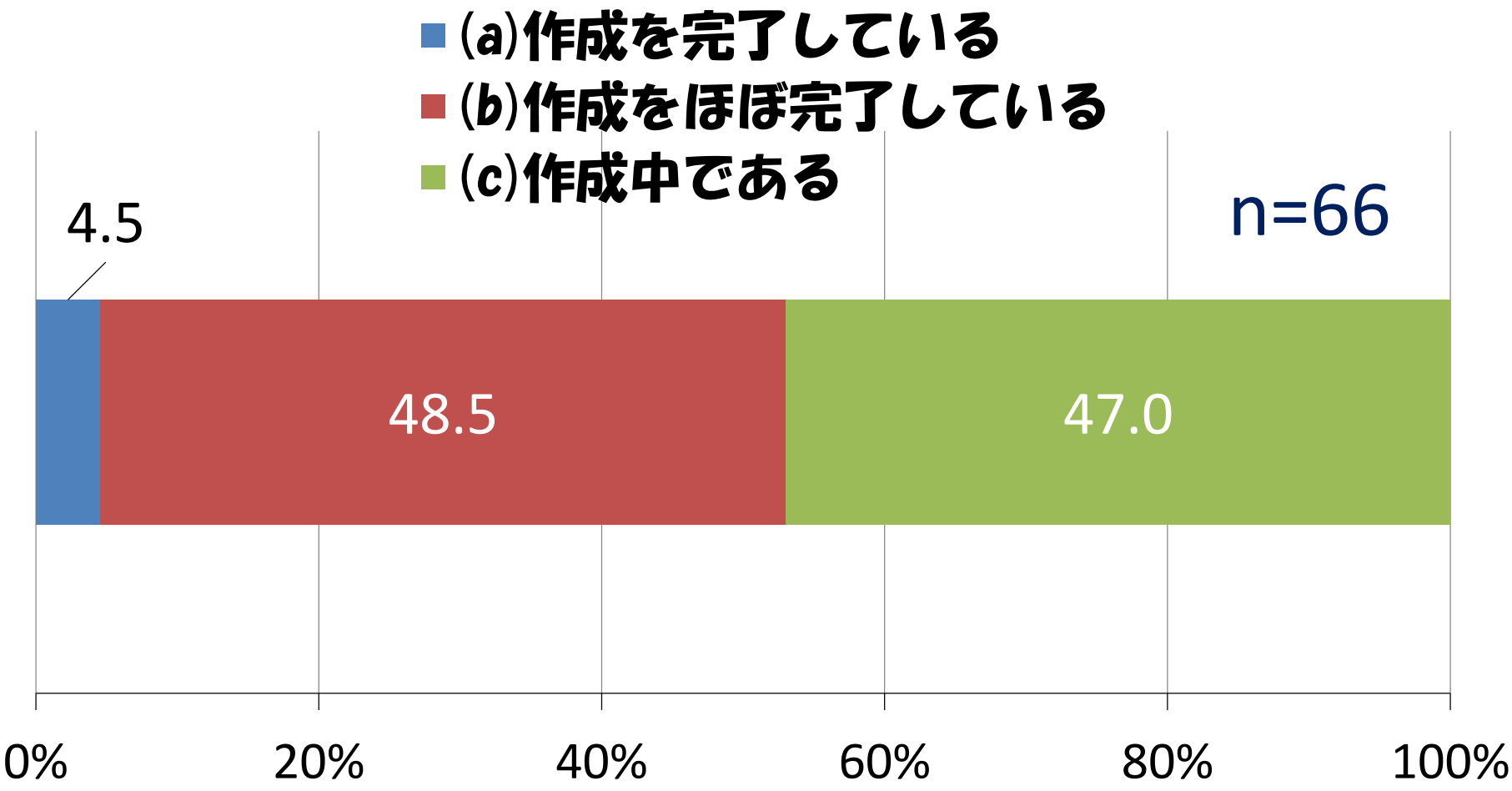
改訂モデル・コアカリキュラムに関する調査

薬学教育協議会
薬学教育調査・研究・評価委員会

改訂モデル・コアカリキュラムに沿った

新カリキュラム作成 の 進行状況

平成26年9月現在（回答校数／70大学）



薬系大学 の 調査内容

Q.　教育内容を強化しますか?

❶ 科目数・単位数の増減／新旧比較

❷ **F.** 薬学臨床の**SBOs**と

A～E（薬学基礎など）との対比

❸ 連携（大学－施設、大学－大学）

薬系大学の調査内容

Q. 教育内容を強化しますか?

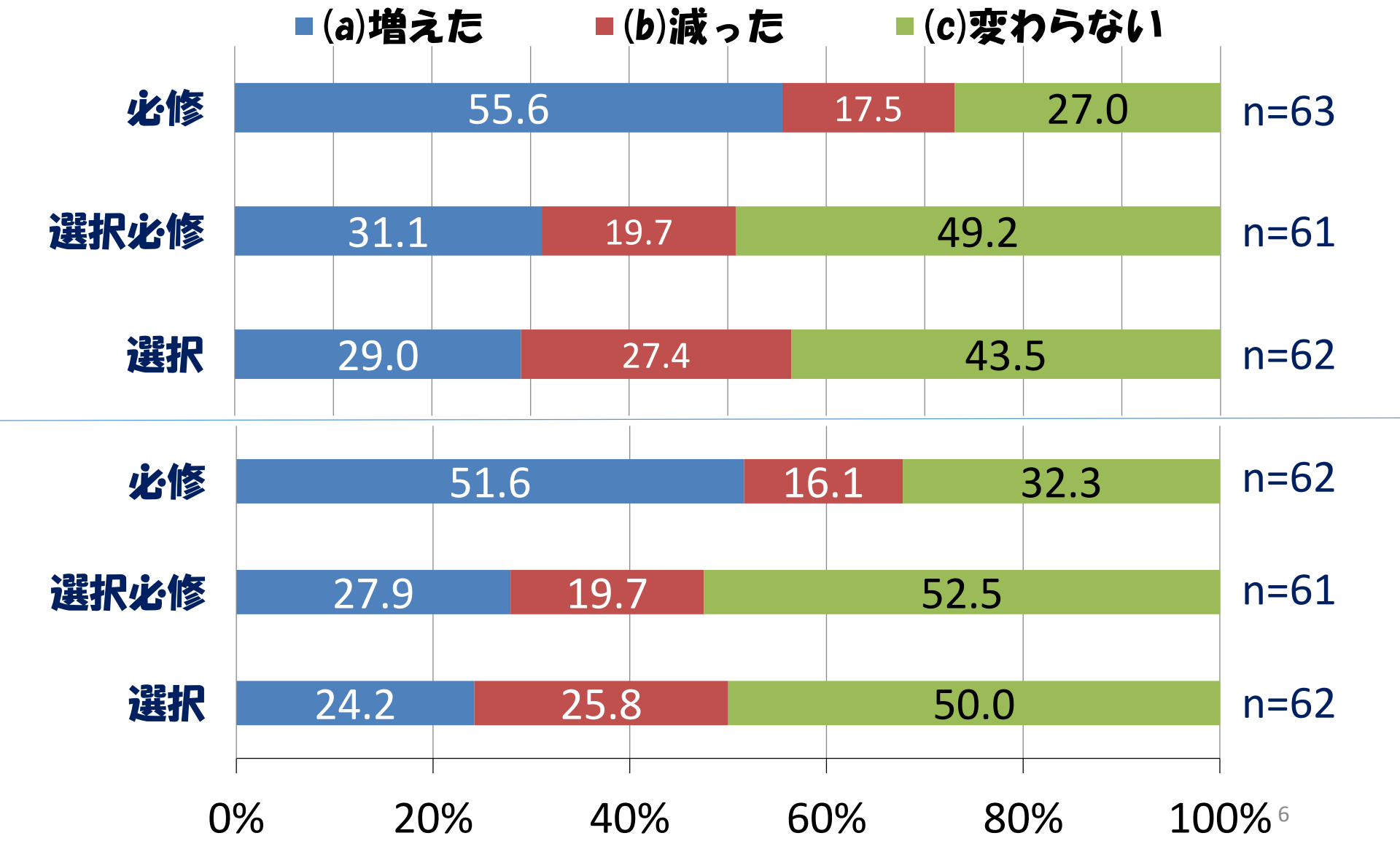
❶ 科目数・単位数の増減／新旧比較

❷ F. 薬学臨床のSBOsと

A～E（薬学基礎など）との対比

❸ 連携（大学－施設、大学－大学）

新カリキュラムにおける
科目数・単位数 の 増減



調査結果のまとめ ❶

Q. 教育内容を強化しますか?

1. 科目配置の新旧比較

- 科目数と単位数

  必修科目／50%以上の大学が「増やした」

  選択科目・選択必修科目／変わらない（40～50%）

- 単位数が**増加した**科目の領域

  E. 医療薬学（42%）＞ A.基本事項（37%）

  ＞ F. 薬学臨床（36%）＞ B. 薬学と社会＞ ・・・

- 単位数が**減少した**科目の領域

  C. 薬学基礎（32.3%）＞ D. 衛生薬学（17.7%）＞・・・

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム

大　項　目

A.基本事項

B.薬学と社会

C.薬学基礎

D.衛生薬学

E.医療薬学

F.薬学臨床

- 事前学習
- 実務実習

G.卒業研究

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム

F. 薬学臨床教育 の 小項目

(1) 薬学臨床の基礎　（例①　②…）

(2)

(3)

(4)

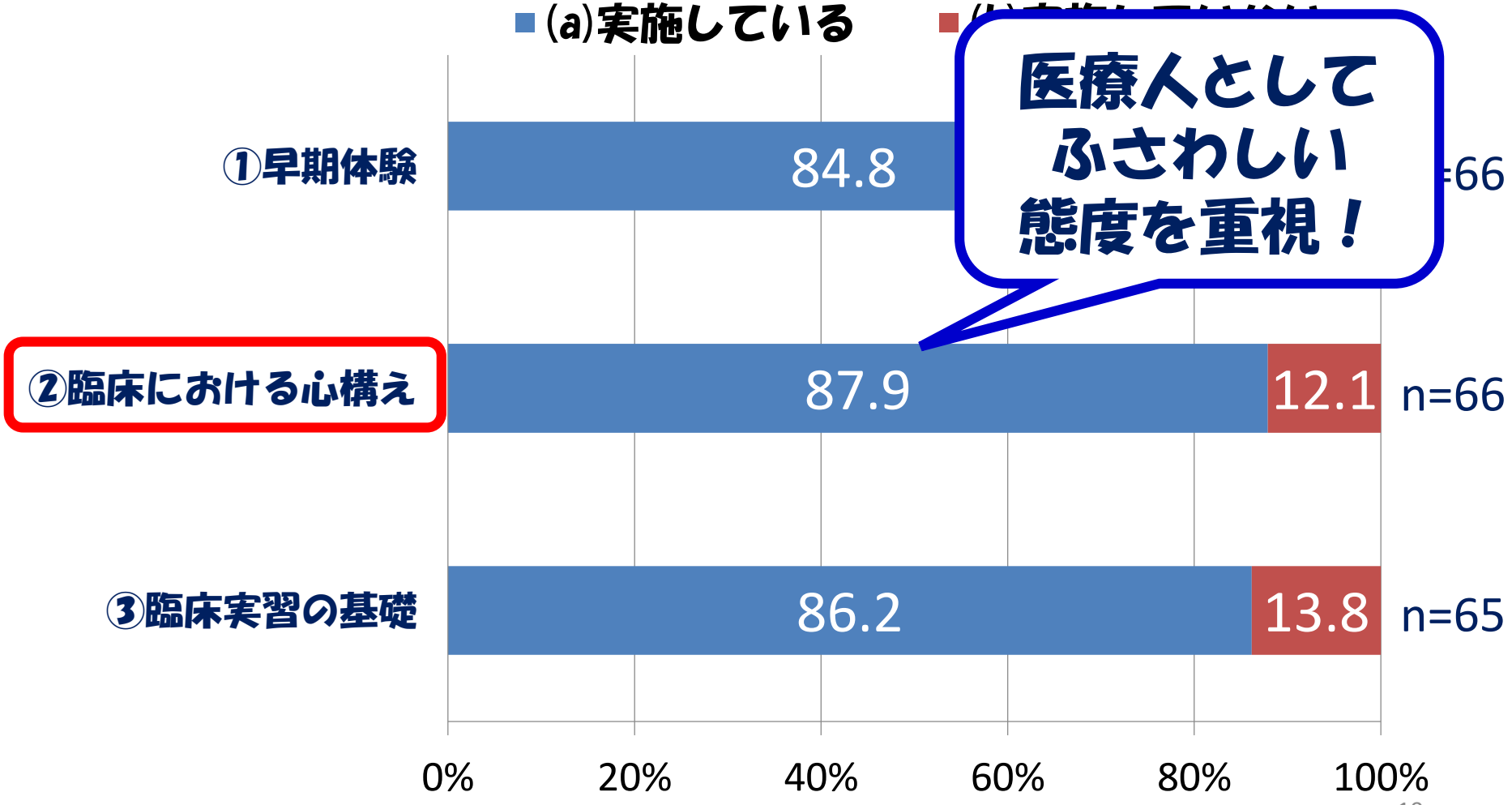
(5) 地域保健・医療・福祉への参画

F. 薬学臨床

小項目の強化を
実施していますか？

Q. 実務実習の教育効果を高める教育を行っていますか？

（1）薬学臨床の基礎



調査結果のまとめ ❷－1

1.「効果を高める対処」 実施の有無

（1）薬学臨床の基礎 .3%）

①早期体験 ②臨床における心 礎

今回の改訂で目指す能力を反映？

（3）薬物療法の実践 （86.6%）

①患者情報の把握（89%） 効

（4）チーム医療への参画 85.5%）

医療人としてふさわしい態度の修得！

努力の実施／ している（＞85%）

調査結果のまと

1.「効果を高める対処」 実施

現状で十分？
現場でも…

（3）[illegible]剤 （[illegible]）

給と管理

在宅医療・介護に
関する管理業務

現場での経験
に期待？

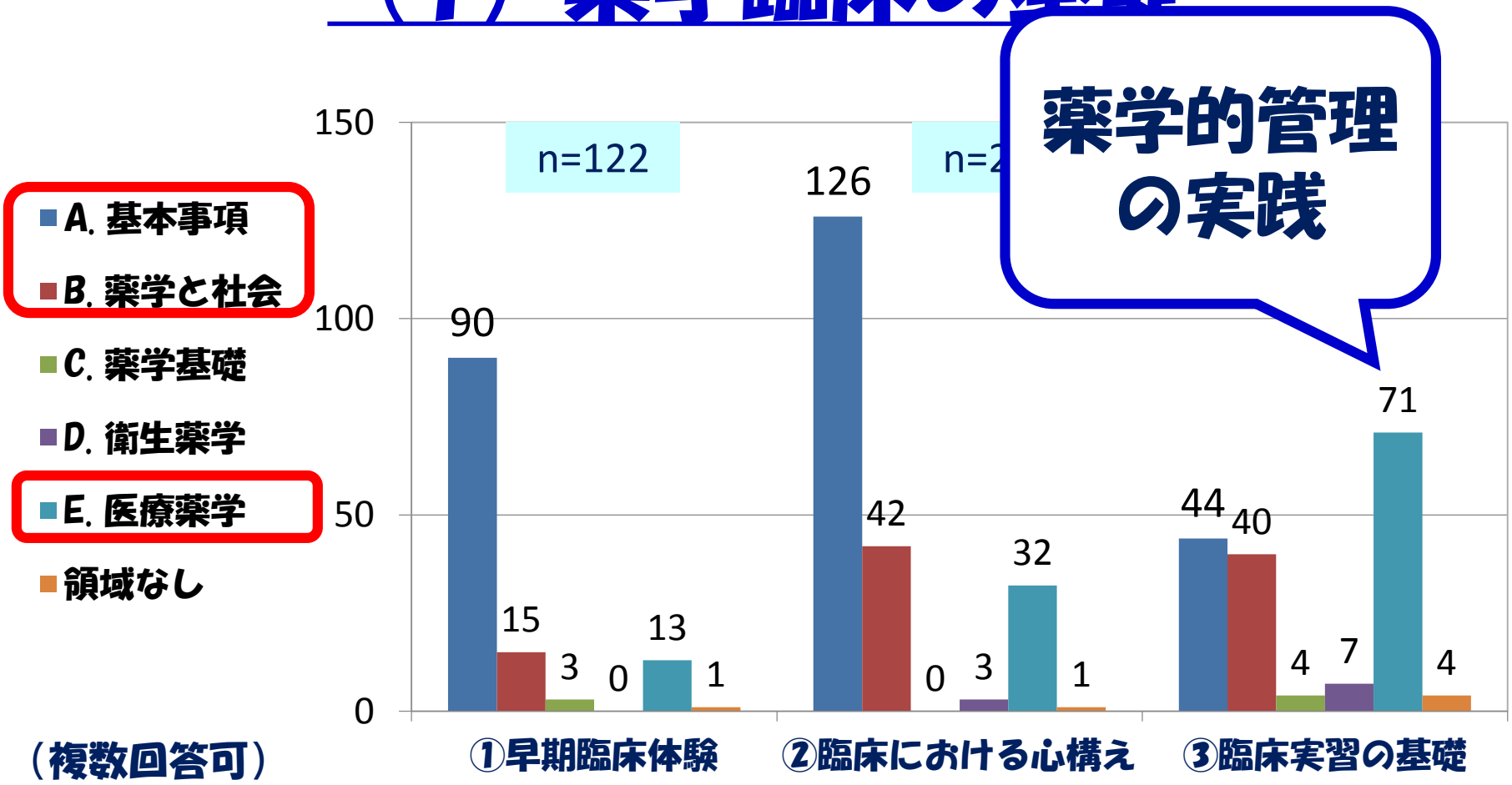
（5）地域保健・医療・福祉への参画 （76.3%）

②地域保健（76%） ④災害時医療と薬剤師（66%）

していない（＞20%）

Q. どのような領域（A～E）、科目で行っていますか？

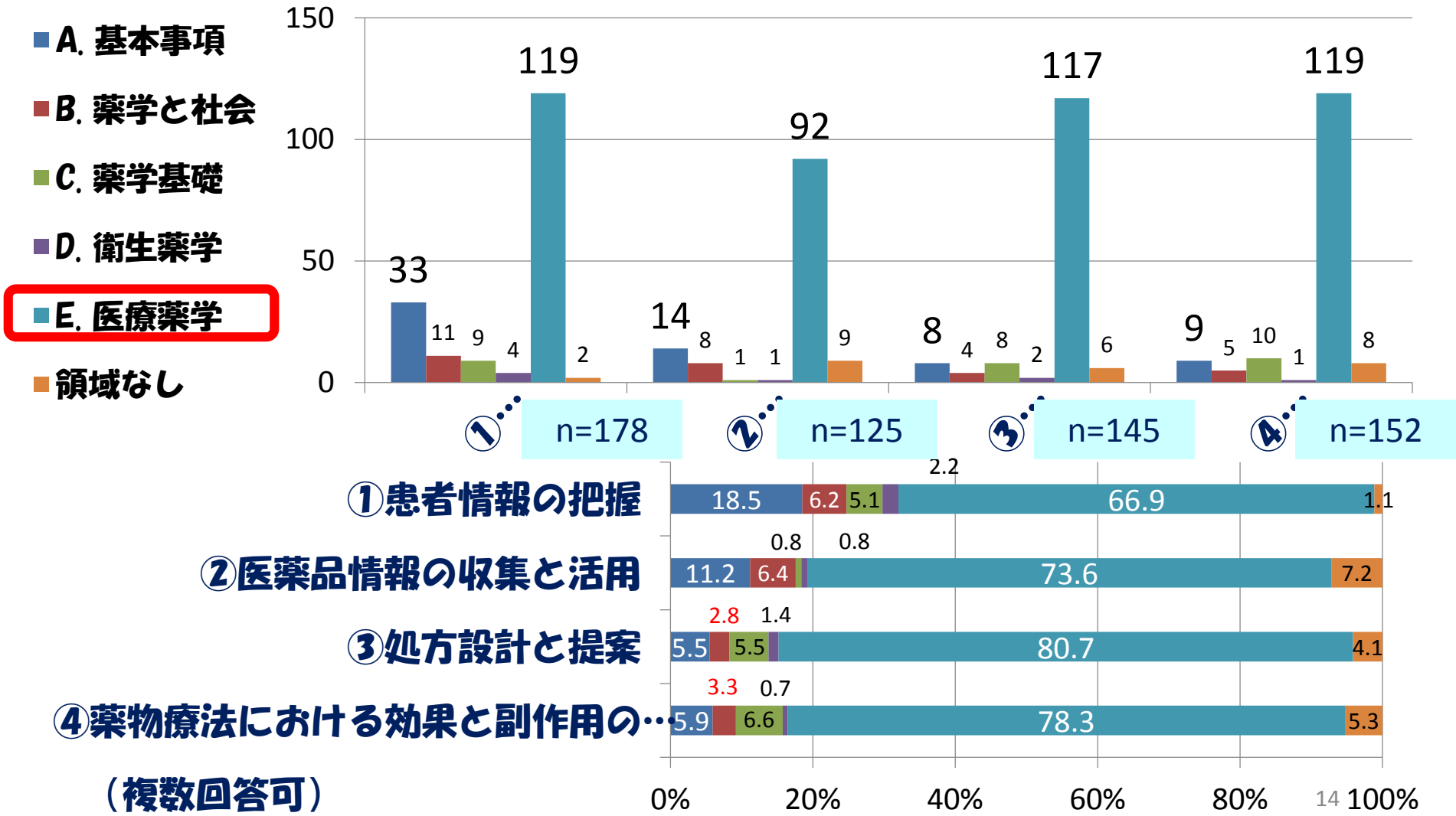
（1）薬学臨床の基礎



（複数回答可）

どのような領域（A～E）、科目で行っていますか？

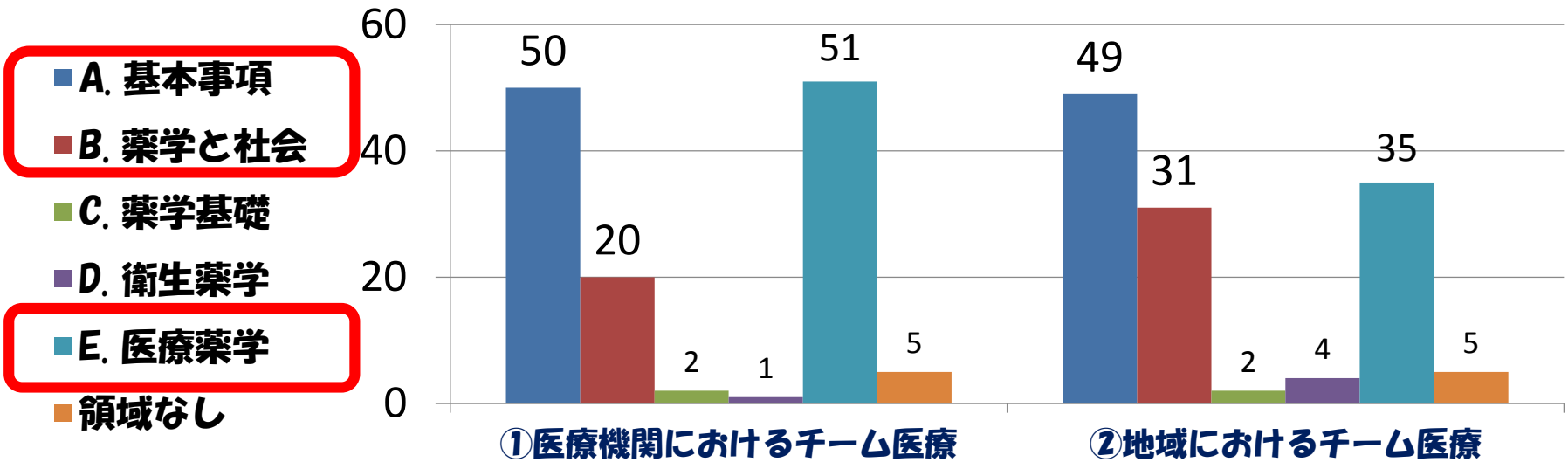
（3）薬物療法の実践

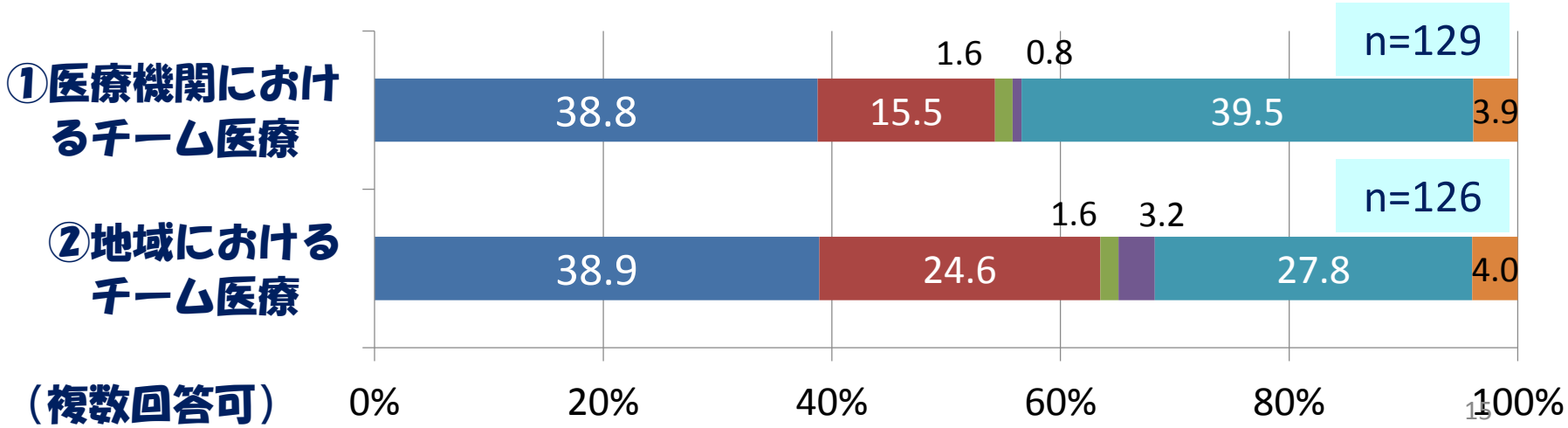


（複数回答可）

どのような領域（A～E）、科目で行っていますか？

（4）チーム医療への参画





（複数回答可）

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム

SBOごとに
“効果を高める努力をしましたか？”

A.基本事項

B.薬学と社会

C.薬学基礎

D.衛生薬学

E.医療薬学

F.薬学臨床
- 事前学習
- 実務実習

G.卒業研究

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム

F. 薬学臨床教育 の 中項目

(1)薬学臨床の基礎

(2)処方せんに基づく調

(3)薬物療法の実践

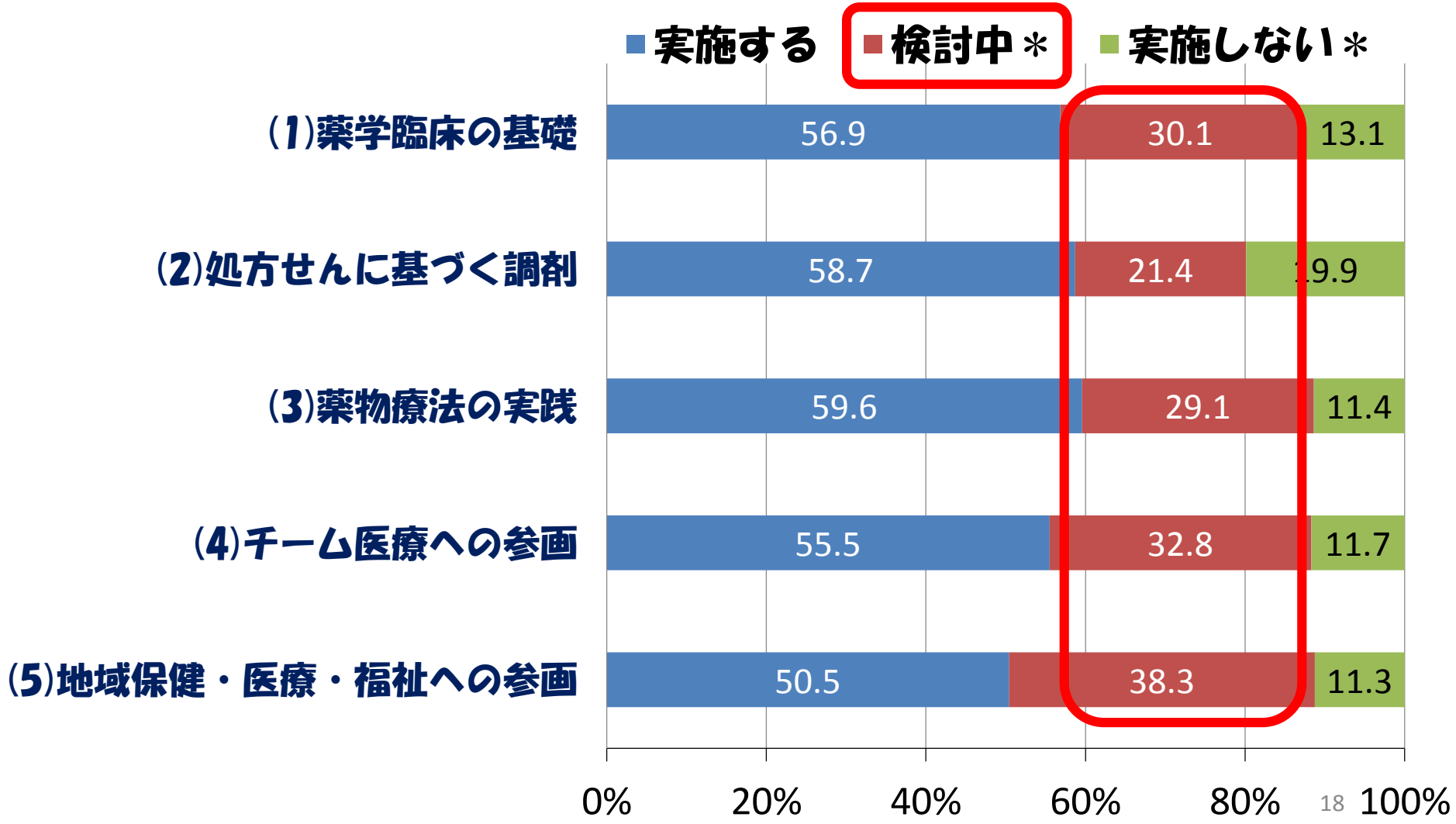
(4)チーム医療への参画

(5)地域保健・医療・福祉への参画

SBOの結果を
中項目で
まとめました

Q. 事前学習で教育効果を高める取り組みは？

中項目の平均



実習施設と大学の連携

より質の高い実務実習教育を効率よく行うために、

現行カリキュラムでの実務実習 において

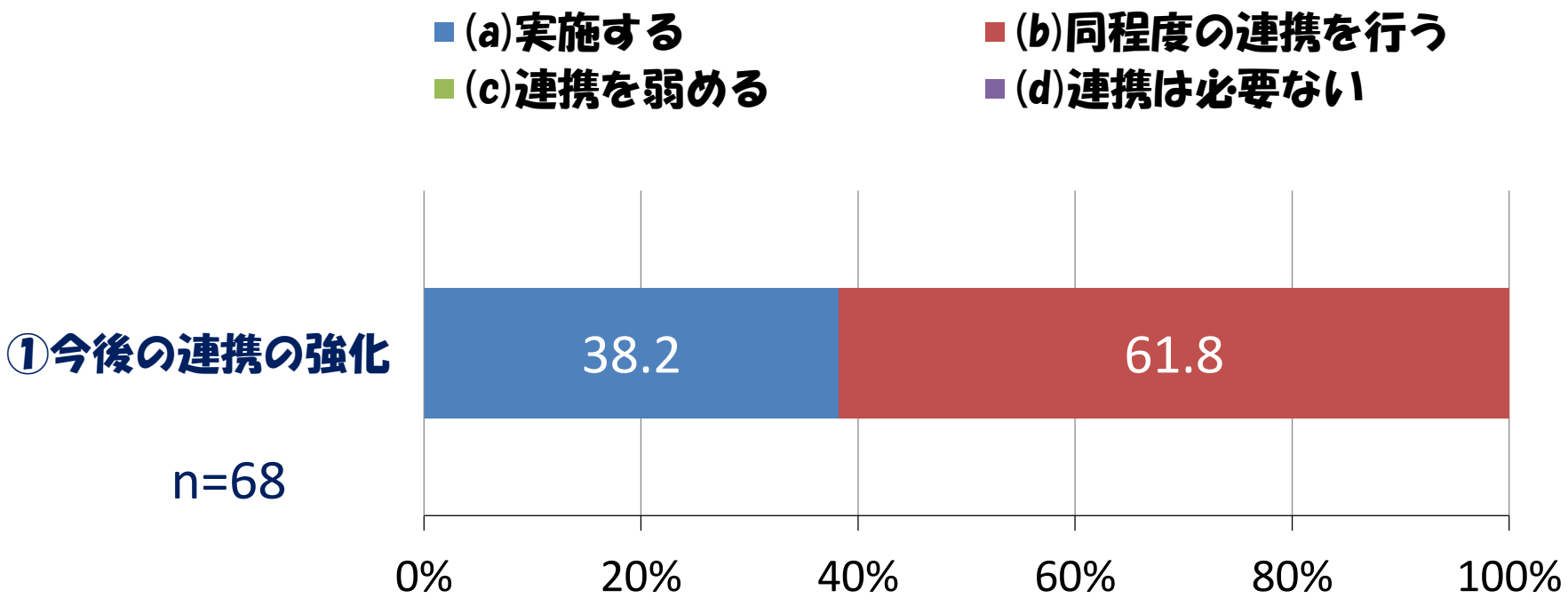
貴学では、実習施設との連携を

どのように実施 していますか?

現　状

改訂モデル・コアカリの実務実習における連携について

①現カリキュラムでの実務実習に比べて**より密な連携**を行いますか？）



【実務実習期間中以外】

＊大学で

- 指導薬剤師対象の実務実習に関連した「**薬学教**[illegible]する「**連**[illegible]**修会**」等**の**[illegible]

いつ、どんな連携？

＊地区・[illegible]

- 実務実習に関連した薬剤師対象の研修会、情報伝達会への**教員の参加**

臨床教員を中心に連携！

【実務実習終了後】

＊大学で

- 薬剤師が参加する「**実務実習報告会**」、「**成果発表会**」等**の開催**（71%）
- 大学独自の**アンケート調査（学生，施設，教員に）実施**（81%）

＊大学・地区で

- 教員と指導者による実務実習の反省会、情報交換会等の開催（78%）

【実務実習中】

＊大学で

・事前学習で**実務薬剤師が学生を指導**

（71%）

＊学生指導のために

・**訪問以外**の連携（WEBシステム、電話、メール等）

（67%）

施設側からの指摘／連携は十分ではない！！！

大学－大学の連携　❸-1

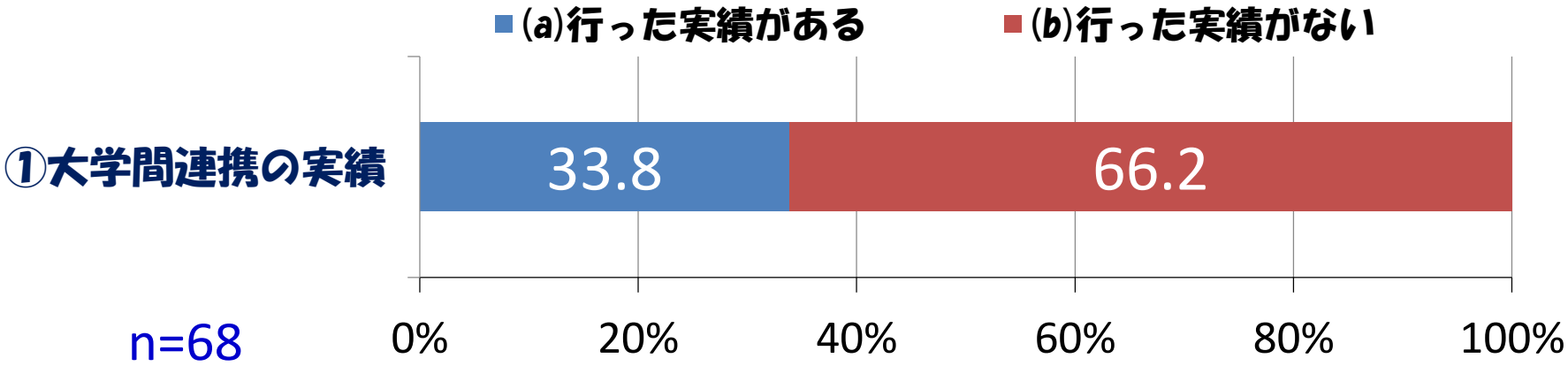
より質の高い実務実習教育を効率よく行うために、

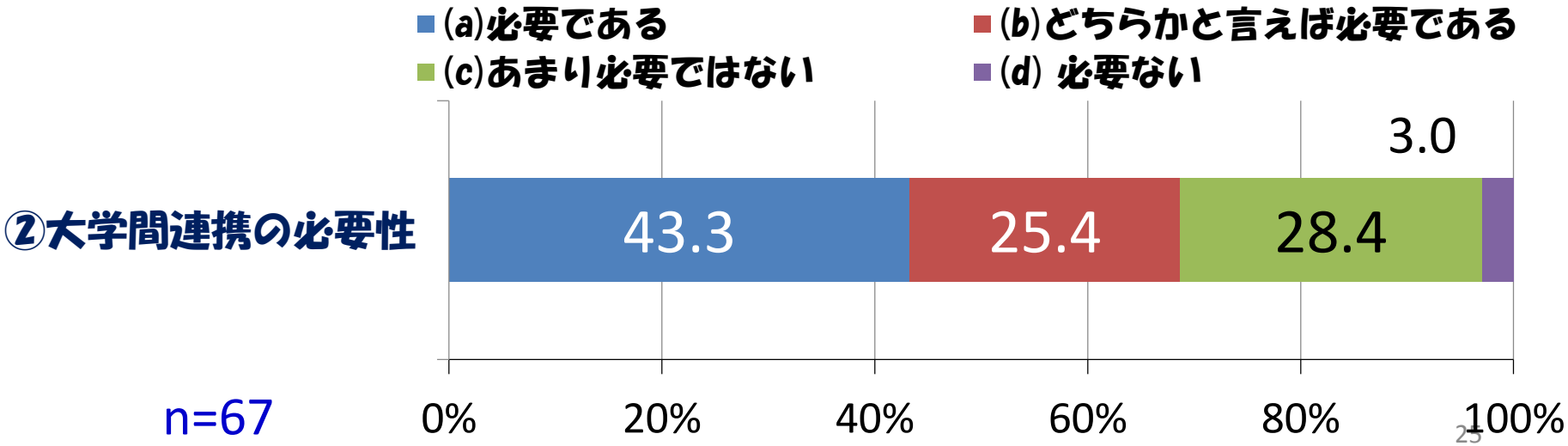
改訂モデル・コアカリキュラム「F.薬学臨床」の実務実習
において

貴学では、大学間の連携について
どのようにお考えですか?

実務実習における連携について

①大学間の連携を行ってきましたか（実績）？
②大学間の連携は必要ですか　　？





結果の考察　❸－1

1. 大学間連携の経験がある　≒ 30%
2. 大学間連携は必要　＞ 70%
3. 大学間連携の**組合せ**　（複数回答可）

　ー近隣の大学（23）、同一地区（33）、都道府県内（33）

4. 必要・有効な連携の**内容**　（複数回答可）

　– カリキュラムに関する情報交換（30）、教員の交流（28）

　ー 成績評価の共有化（24）、教育プログラムの共同開発（24）

受入施設側の準備状況

文部科学省医療人養成推進等委託事業

改訂モデル・コアカリキュラムに関する調査

薬学教育協議会
薬学教育調査・研究・評価委員会

アンケート実施の詳細（病院・薬局）

目的／改訂モデル･コアカリキュラムの実務実習において、一貫性のある病院･薬局実務実習の実施のために、SBOsがどちらで行われるべきか、また、どこまで実現可能かを把握する。

実施時期／平成26年8月18日～ 9月10日

対象施設／全国8地区調整機構

実習生受入施設:**4715施設**

対象項目・設問数／**6項目･180設問**

調査方法／無記名、多肢選択型･自由記述併用

アンケート回答数の内訳

地区名	合計	薬局	病院
北海道地区	105	66	39
東北地区	95	54	41
関東地区	560	454	106
東海地区	157	105	52
北陸地区	26	18	8
近畿地区	381	247	134
中国・四国地区	222	132	90
九州・山口地区	204	131	73
不明	70	47	23
合計（回収率%）	1,820 (38.6)	1,254 (35.7)	566 (47.3)

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム

F. 薬学臨床教育 の 中項目

(1)薬学臨床の基礎（SBOs 25）

(2)処方せんに基づく調剤（76）

(3)薬物療法の実践（40）

(4)チーム医療への参画（13）

(5)地域保健・医療・福祉への参画（22）

全176個

調査の目的と設問内容

【目的】改訂モデル・コアカリキュラムの実務実習において、一貫性のある病院・薬局実務実習の実施のために、次の内容について現状調査し把握すること

【各SBOについての設問内容】

1．主にどちらで行うべきか？

［ 薬局 ・ 病院 ・ 両方 ］

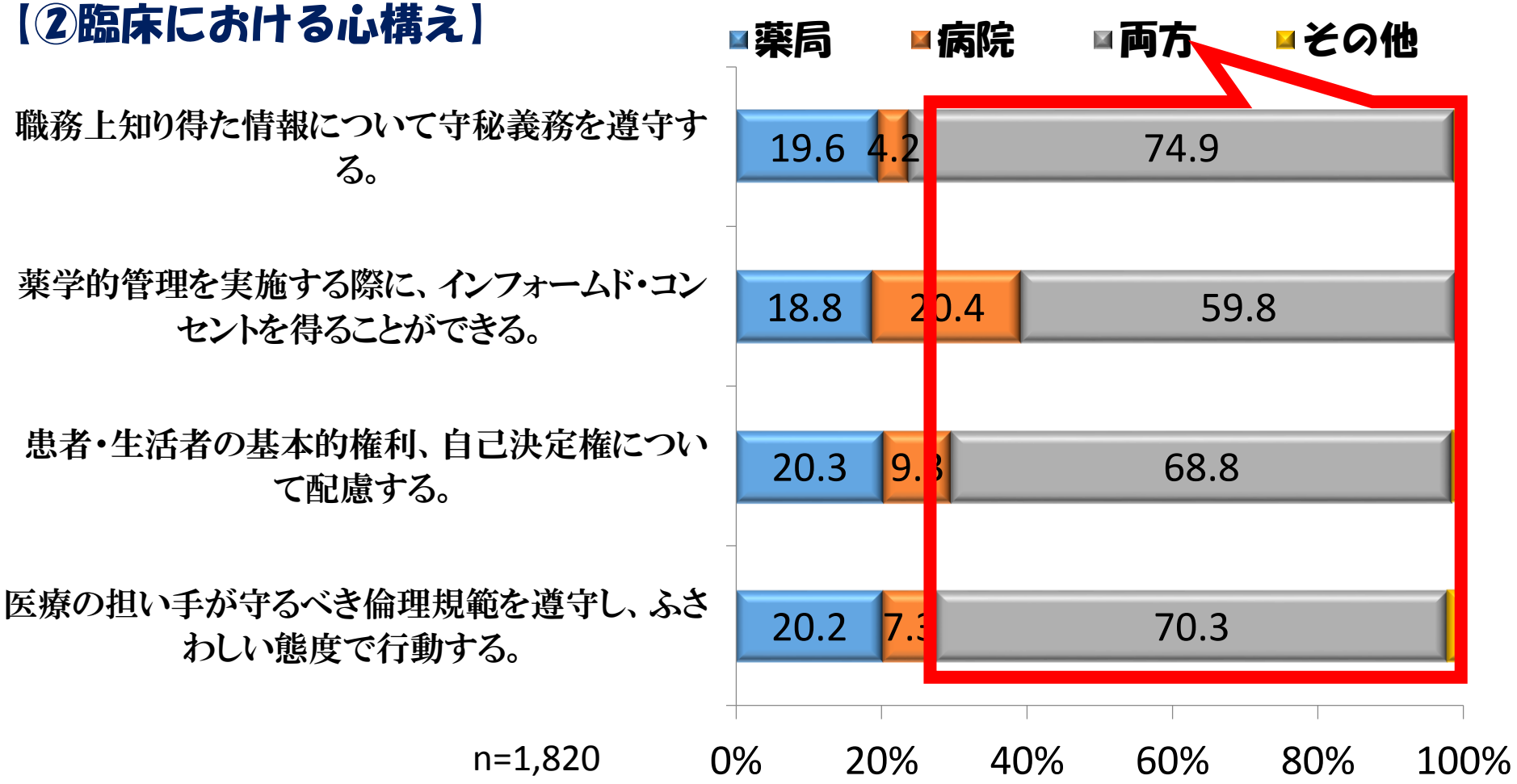
2．現状でどこまで実施可能か

①現状で十分実施できる
②現在、ある程度実施できる
③他施設あるいは地域と共同で実施できる
④ 現在はできないが将来的には実施できる

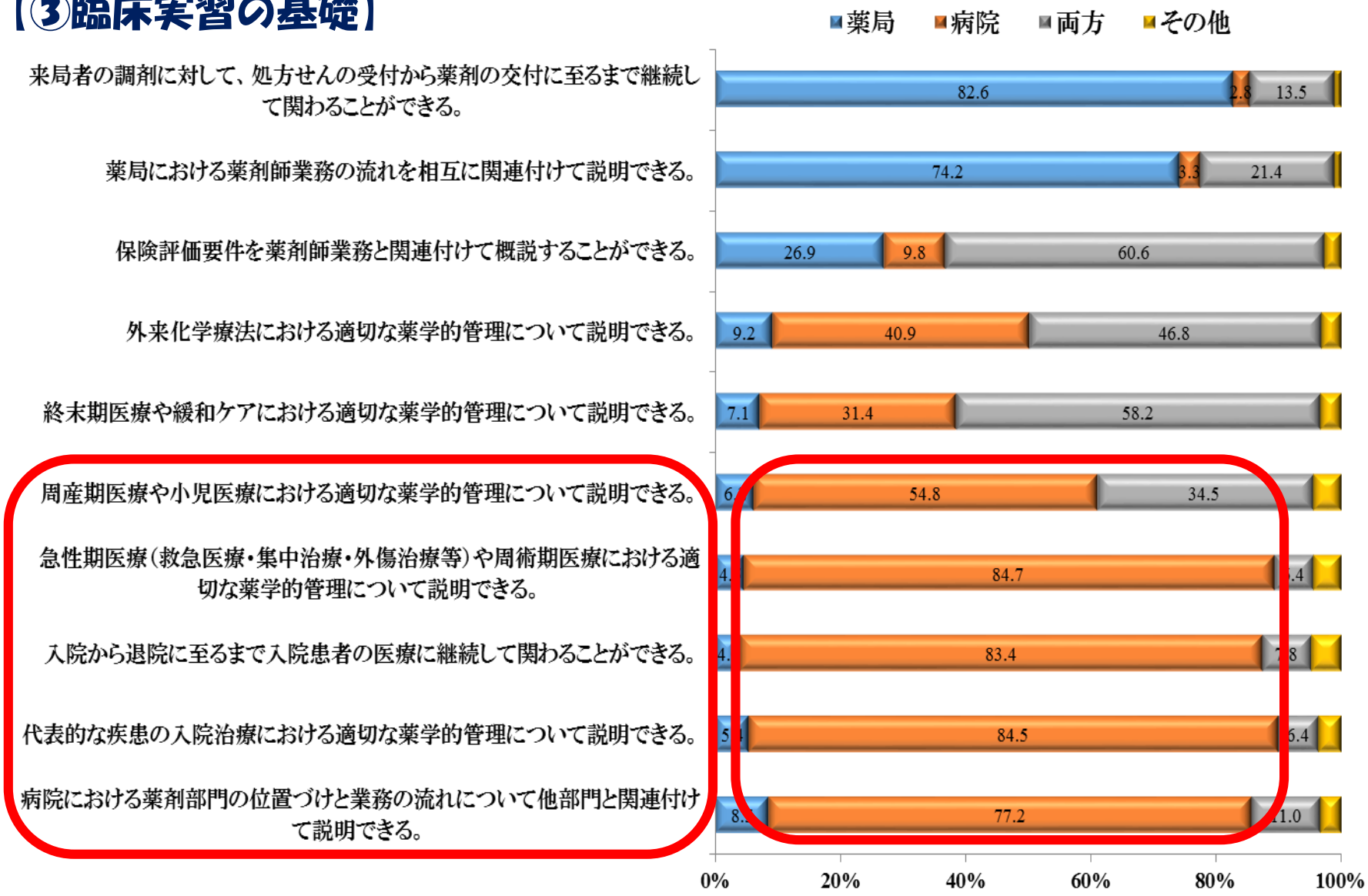
各実習項目について「主に実施すべき実習施設」に関する回答

（1）薬学臨床の基礎

【②臨床における心構え】

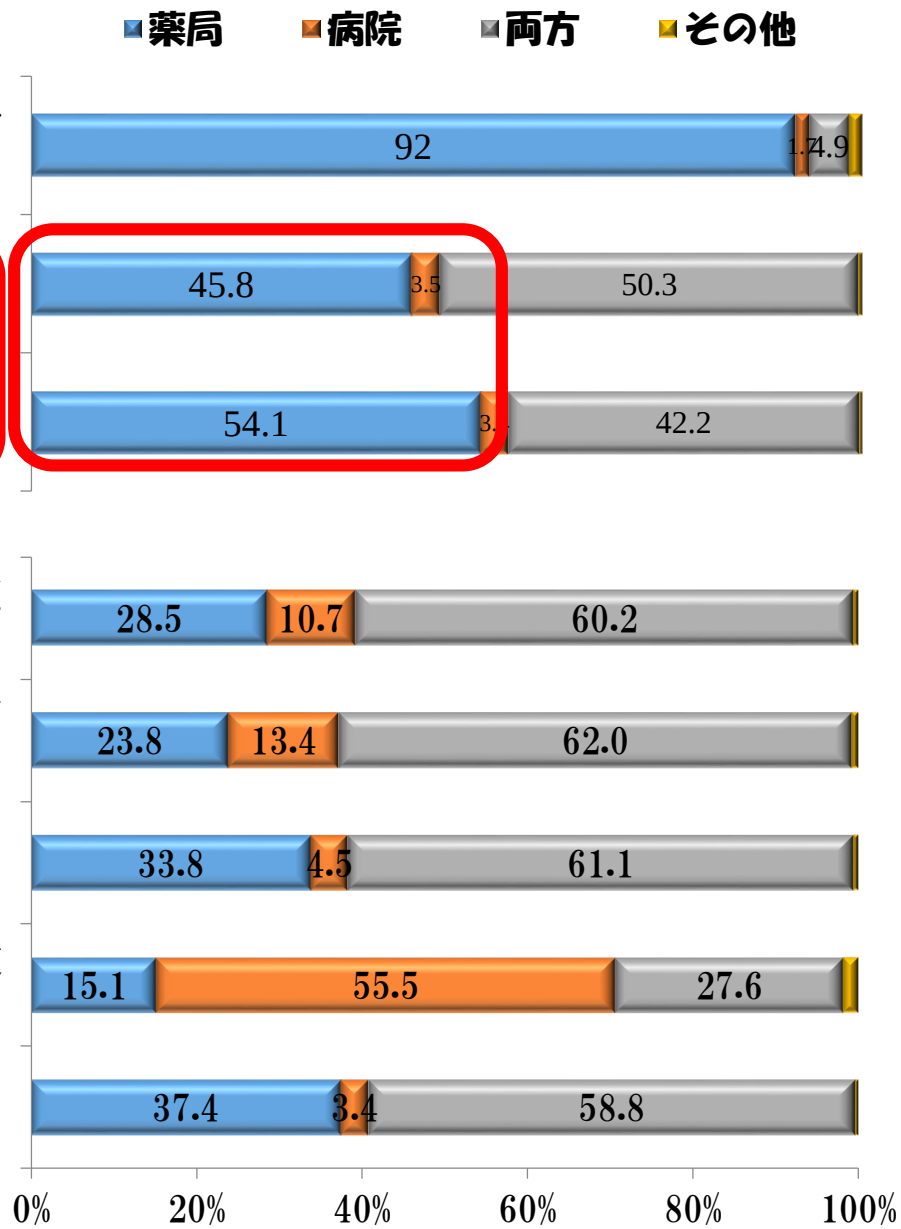


【③臨床実習の基礎】


薬局
病院
両方
その他
来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。
82.6
2.8
13.5
薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。
74.2
3.3
21.4
保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。
26.9
9.8
60.6
外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。
9.2
40.9
46.8
終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。
7.1
31.4
58.2
周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。
54.8
34.5
急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。
84.7
入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。
83.4
代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。
84.5
病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。
77.2
0%
20%
40%
60%
80%
100%

（2）処方せんに基づく調剤

【①法令・規則等の理解と遵守】



【②処方せんと疑義照会】

主にどちらで行われるべきか？

【両方で】

- 患者情報の把握、医薬品情報の収集と活用
- 安全管理（但し、感染対策は病院で）
- 患者応対・服薬指導・患者教育
- 書類の作成（安全性情報報告書、SOAPなど）
- 薬ー薬連携（チーム医療）
- 災害時医療

主にどちらで行われるべきか？

【病院で】

- 感染対策
- 処方設計、薬の効果・副作用（モニター）
- 院内でのチーム医療

【薬局で】

- 法令・規則等の理解と遵守
- 調剤
- 医薬品の供給と管理
- 後発医薬品の選択
- ﾌﾟﾗｲﾏﾘｹｱ、ｾﾙﾌﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝの実践
- 地域保健・医療・福祉（在宅、介護）

調査の目的と設問内容

【目的】改訂モデル・コアカリキュラムの実務実習において、一貫性のある病院・薬局実務実習の実施のために、次の内容について現状調査し把握すること

【各SBOについての設問内容】

1．主にどちらで行われるべきか

［ 薬局 ・ 病院 ・ 両方 ］

2．現状でどこまで実施可能か

①現状で十分実施できる

②現在、ある程度実施できる

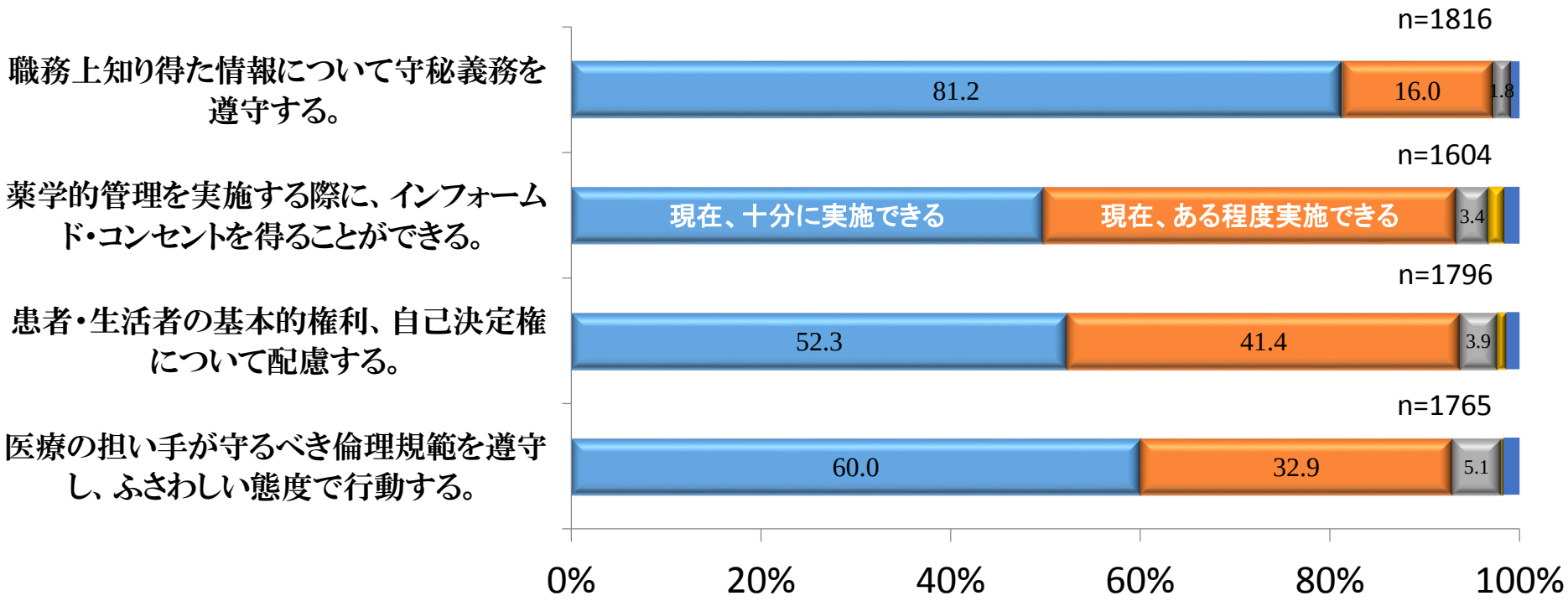
③他施設あるいは地域と共同で実施できる

④ 現在はできないが将来的には実施できる

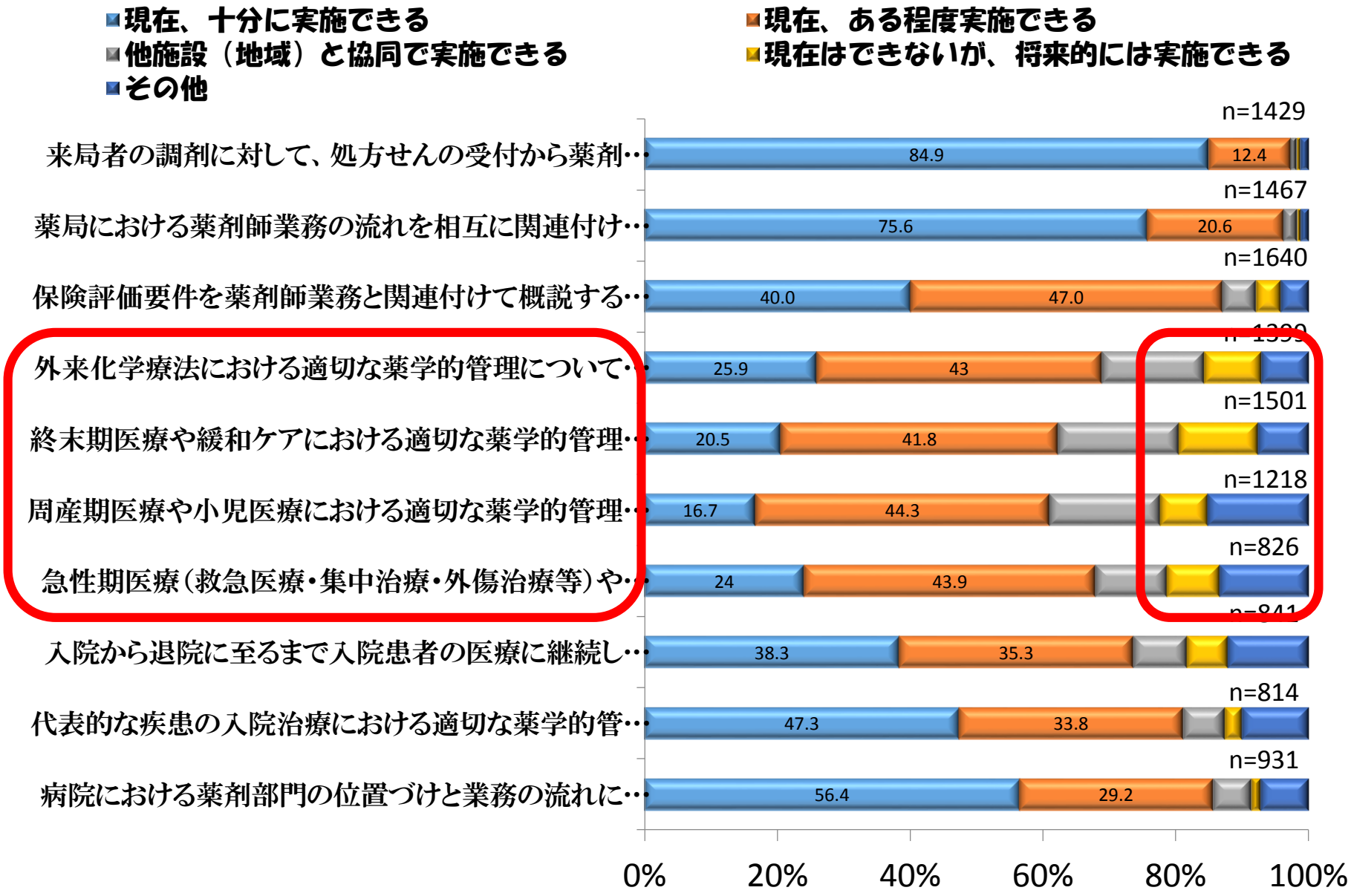
「主に実施すべき実習施設」と回答した施設の
実習内容の実施状況

（1）薬学臨床の基礎

【②臨床における心構え】



【③臨床実習の基礎】


現在、十分に実施できる
現在、ある程度実施できる
他施設（地域）と協同で実施できる
現在はできないが、将来的には実施できる
その他
来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤…
n=1429
84.9
12.4
薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付け…
n=1467
75.6
20.6
保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説する…
n=1640
40.0
47.0
外来化学療法における適切な薬学的管理について…
25.9
43
終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理…
n=1501
20.5
41.8
周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理…
n=1218
16.7
44.3
急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や…
n=826
24
43.9
入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続し…
38.3
35.3
代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管…
n=814
47.3
33.8
病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れに…
n=931
56.4
29.2
0%
20%
40%
60%
80%
100%

課題と思われるもの

◎：うんと頑張る（現在できない・その他＞20％）
△：頑張る（現在できない・その他＜20％）

【病院・薬局に共通した課題】

- △外来化学療法、終末期医療、緩和ケアにおける薬学的管理
- △注射剤（抗がん剤、輸液など）の調製
- ◎チーム医療
  - 病院／退院後のケア計画時の医師・看護師らとの連携
  - 薬局／関係する職種間での情報共有・連携

課題と思われるもの

【病院で】

△周産期医療

△急性期（救急医療・集中治療）、周術期医療における薬学的管理

△処方設計時のﾌﾟﾛﾄｺｰﾙ、ｸﾘﾆｶﾙﾊﾟｽの活用

△TDM関連

【薬局で】

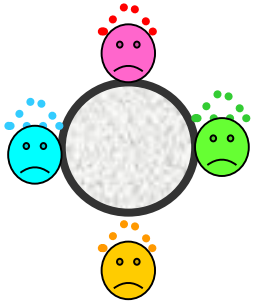
◎在宅医療・介護に関する薬剤師業務

◎災害時医療の概要、医療体制

組織における問題解決のプロセス

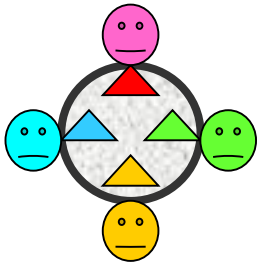
問題意識の共有

⬇



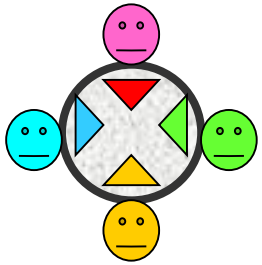
問題点の発見と認識（SGD）

⬇



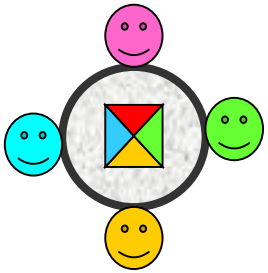
問題点の整理と明確化（KJ法）

⬇

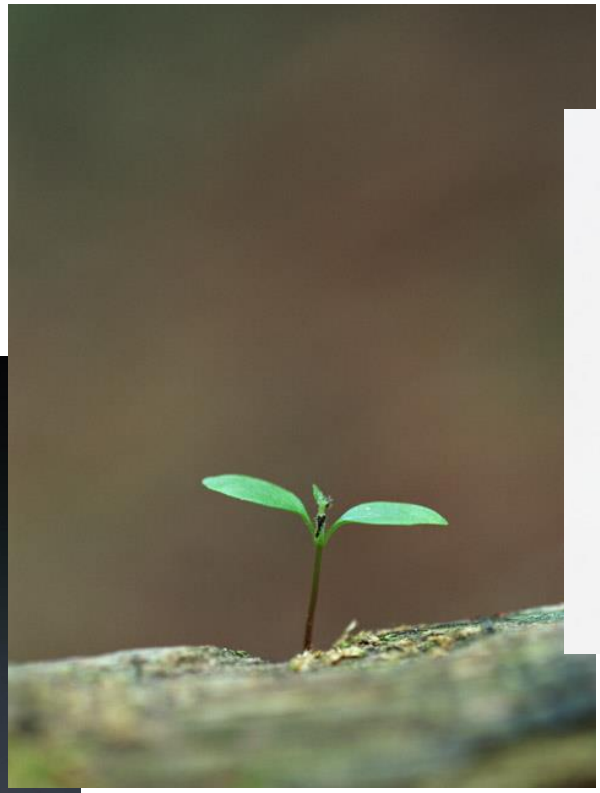


解決策の決定（二次元展開法）

⬇



アクションプランの作成
解決策の実行と定着化（力野分析）



ご清聴有難うございました